

# 公募モニター型インターネット調査データと 個別面接法調査データの比較分析

歸山 亜紀（金沢大学大学院）・轟 亮（金沢大学）

## 1 本稿の目的

階層と社会意識研究プロジェクト（以下、SSP プロジェクト）は、現在の日本社会のありようを把握し、そしてこれから日本社会がどこへ向かって進もうとしているのかについて、階層と社会意識の関係から解明することを目的とするものである。この目的のために、2015年に第1回 SSP 調査（階層と社会意識全国調査）という本調査の実施が計画されている。本稿を執筆している2013年10月31日現在において、第1回 SSP 本調査は、日本全国の20歳から64歳の男女個人、設計標本サイズ9,000という大規模な全国調査となる予定である（詳しくは SSP プロジェクトのホームページ：<http://ssp.hus.osaka-u.ac.jp/> を参照）。

このような大規模な社会調査プロジェクトでは、斬新な発想に基づいて設定する新しい質問項目について、その研究上の妥当性などを検討するために予備調査（preliminary survey）を行うことにより、その項目の本調査（main survey）への採否を判断するプロセスを取り入れ、本調査の質を維持・向上をさせるようになってきている<sup>1</sup>。

一方、たいへん多くのインターネット調査が、市場調査を中心として実施される状況が生まれている。われわれは、無作為抽出とみなせないモニター型のインターネット調査が、とくに変数間の関連を検討するための予備調査として、学術研究に有効活用できるのではないかという着想から研究を行ってきた。現在、その主要な研究成果を論文として発表する準備を整えている。

本稿は、上記の論文で紙幅の関係上、示すことができない分析結果（数表）のすべてを公開するものである。

## 2 データ

使用したデータは、SSP プロジェクトの一環として行われた二つの調査データである。一つは SSP プロジェクトが2012年に全国の25歳から59歳までの男女を対象として行ったインターネット調査（SSP-W2012）データである。もう一つは、統計数理研究所と大阪大学が2010年に行った、25歳から59歳までの日本人男女から無作為抽出したサンプルに

---

<sup>1</sup> たとえば American National Election Studies や早稲田 GLOPE 世論調査プロジェクトなどがこのようなプロセスを取り入れている。詳しくは Aldrich and Kathleen (2012)、日野・田中 (2013) を参照されたい。

対する、個別面接法による全国調査（SSP-I2010）のデータである。この二つの調査データ<sup>2</sup>の分析結果を比較することによって、モニター型のインターネット調査である SSP-W2012 のデータの質を検討したいと思う。意外なことに、この二種類の調査法のデータを直接的に比較した研究は少ない。従来型の個別面接調査のデータと、典型的なインターネット調査のデータは、どの程度似ているのであろうか。

### 3 分析方法

SSP-W2012 と SSP-I2010 では、同じ質問文と回答選択肢によって回答を得た意識項目（意識変数）が 24 項目ある。まず、その意識変数の回答分布を比較するために、二つの調査データを用いて、平均値の比較（ $t$  検定）を行った（表 1）。次に、意識変数どうしの相関関係とその同等性（表 2-1、2-2）、そして性別、年齢、教育年数、職業威信スコア、世帯収入の 5 つの属性変数（表 3 に基礎統計量を示した）と意識変数の 2 変数間の相関関係とその同等性について、検討を行った（表 4-1～4-24）。最後に、変数間のトータルな関連構造を比較検討するために、複数の属性変数を独立変数とし、意識変数を従属変数とした重回帰分析を行い、二つの調査の間で結果を比較した。（表 5-1～5-24）。

### 4 結果

意識変数の回答分布については、 $t$  検定により、SSP-W2012 と SSP-I2010 の二つのデータでほとんどの項目間で差異があるという結果を得た。インターネット調査について、登録モニターの偏りという問題がしばしば指摘されるが、そのことがこの差異を生んでいる可能性があるだろう。

続いて、2 つの意識変数間の相関係数とその同等性の検定の結果では、5 段階階層帰属意識とのペアでは 22 項目のうち 15 項目、10 段階階層帰属意識とのペアでは、13 項目が同等であるという検定結果を得た。また、属性変数と意識変数の間の相関係数およびその同等性の検定では、性別との相関で 24 項目中 22 項目、年齢では 13 項目、教育年数では 16 項目、職業威信スコアでは 19 項目、世帯収入で 23 項目であった。回答分布の比較では、ほとんどの項目で差異がみられたのに対し、2 変数間の関連では同等であるものが多かった。

変数間関連構造をトータルに検討するために行った重回帰分析（5 つの独立変数を用いる）については、SSP-W2012 と SSP-I2010 の間で、各独立変数の効果（偏回帰係数）の 95% 信頼区間の重なりを確認すると、5 つの独立変数すべてで重なりがみられたのが 24 項目中 20 項目であった。二つの調査データでそれぞれ行った重回帰分析の結果は、かなり似ていると言えるだろう。この分析結果は、モニター型のインターネット調査が、変数間関連を検討するための予備調査となりうる可能性を示唆している。

本稿で行ったような比較検討を行うことで、モニター型インターネット調査のデータの

---

<sup>2</sup> SSP-W2012 の調査設計や単純集計などは SSP プロジェクト ウェブ調査セクション編（2013）、SSP-I2010 については SSP プロジェクト編（2013）を参照。

質をわれわれは評価することができるだろう。このような知見の積み重ねによって、インターネット調査を有効に学術利用する可能性が生まれると思われる。

## 参考文献

Aldrich, John H. and Kathleen M. McGraw (eds.), 2012, *Improving Public Opinion Surveys: Interdisciplinary Innovation and the American National Election Studies*, Princeton University Press.

日野愛郎・田中愛治, 2013, 『世論調査の新しい地平——CASI方式世論調査』勁草書房.  
SSPプロジェクト編, 2013, 『SSP-I2010 コード・ブックおよび基礎集計表』SSPプロジェクト.

SSPプロジェクト ウェブ調査セッション編, 2013, 『SSP-W2012 コード・ブックおよび基礎集計表』SSPプロジェクト.

表1 共通する意識変数とその平均の差の検定の結果

共通する意識項目 (24 項目)	SSP-I2010				SSP-W2012		
	<i>n</i>	平均値	標準偏差		<i>n</i>	平均値	標準偏差
5段階階層帰属意識 (上 (5点) ~ 下の下 (1点))	1,692	3.017	0.800	>	2,758	2.759	0.872
10段階階層帰属意識 (上⇄下 (10点~1点))	1,689	5.229	1.516	>	2,716	5.013	1.760
満足度 (満足している (5点) ~ 不満である (1点))							
生活全般	1,745	3.867	1.036	>	2,837	3.304	1.148
自分の学歴	1,741	3.662	1.133	>	2,829	3.373	1.103
仕事の内容	1,395	3.794	1.047	>	2,162	3.242	1.118
自分の収入	1,395	3.133	1.231	>	2,162	2.576	1.161
10年間の生活水準の変化 (よくなった (5点) ~ 悪くなった (1点))	1,739	2.860	1.100	>	2,820	2.644	1.157
各種水準の自己評価 (上⇄下 (10点~1点))							
収入	1,664	4.713	1.831	>	2,733	4.328	2.097
学歴	1,715	5.211	1.764	n. s.	2,781	5.267	1.866
職業の社会的評価	1,360	5.679	1.655	>	2,081	5.242	1.786
財産	1,685	4.350	1.972	n. s.	2,753	4.242	2.134
生活全般のゆとり	1,715	4.959	1.859	>	2,779	4.764	1.993
意見・態度 12 項目 (そう思う (5点) ~ そう思わない (1点))							
働くことは、社会に対する義務である	1,742	4.190	1.019	>	2,822	3.627	1.076
チャンスが平等に与えられるなら、競争で貧富の差がついても仕方がない	1,732	3.681	1.028	>	2,822	3.597	0.954
競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくことの方が大切だ	1,732	3.417	1.077	>	2,822	2.986	0.971
今後、日本で格差が広がってもかまわない	1,736	2.118	1.007	<	2,822	2.368	1.002
今の日本では収入の格差が大きすぎる	1,733	3.774	1.144	>	2,814	3.465	1.051
違った考え方を持った人がたくさんいるほうが、社会にとって望ましい	1,735	3.789	0.969	>	2,819	3.629	0.824
社会から何かしてもらおうことを考えるよりも、社会のために何かをしたい	1,742	3.653	0.903	>	2,825	3.313	0.858
今の日本では、大学を卒業していないと社会に出てから不自由な思いをする	1,737	2.939	1.256	<	2,816	3.061	1.093
自分の日々の暮らしの損得を離れて、社会全体の利益を大切にすべきだ	1,734	3.034	0.967	>	2,806	2.923	0.853
私は世の中の仕組みや出来事をくわしく知っておきたい	1,741	3.948	0.910	>	2,828	3.703	0.829
権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない	1,733	2.772	1.085	>	2,816	2.534	0.967
「宗教的な心」というものは大切だと思う	1,733	2.962	1.122	>	2,752	2.653	1.035

注1 「仕事の内容」満足度、「自分の収入」満足度、「職業の社会的評価」の水準の自己評価は有職者のみ

注2 不等号は *t* 検定の結果、統計的に有意に差があったもの (すべて 1%水準), n. s. は有意差がなかったもの

表 2-1 5段階階層帰属意識と意識変数の相関係数の同等性の検定の結果

意識変数	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
「生活全般」満足度	0.412**	1,691	0.460**	2,756	0.055
「自分の学歴」満足度	0.246**	1,688	0.274**	2,748	0.332
「仕事の内容」満足度（有職者のみ）	0.267**	1,353	0.323**	2,107	0.078
「自分の収入」満足度（有職者のみ）	0.389**	1,353	0.452**	2,107	0.028*
-----	-----	-----	-----	-----	-----
10年間の生活水準の変化	0.360**	1,684	0.410**	2,742	0.058
-----	-----	-----	-----	-----	-----
「収入」の水準	0.511**	1,627	0.544**	2,674	0.146
「学歴」の水準	0.377**	1,675	0.318**	2,715	0.031*
「職業の社会的評価」の水準（有職者のみ）	0.333**	1,328	0.451**	2,046	0.000**
「財産」の水準	0.460**	1,649	0.502**	2,695	0.081
「生活全般のゆとり」の水準	0.506**	1,675	0.560**	2,718	0.015*
-----	-----	-----	-----	-----	-----
働くことは、社会に対する義務である	0.071**	1,689	0.135**	2,744	0.037*
チャンスが平等に与えられるなら、競争で貧富の差がついても仕方がない	0.086**	1,681	0.189**	2,741	0.000**
競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくの方が大切だ	-0.121**	1,682	-0.173**	2,741	0.086
今後、日本で格差が広がってもかまわない	0.107**	1,684	0.173**	2,741	0.030*
今の日本では収入の格差が大きすぎる	-0.142**	1,679	-0.178**	2,733	0.234
違った考え方をを持った人がたくさんいるほうが、社会にとって望ましい	0.046	1,684	0.043*	2,740	0.923
社会から何かしてもらうことを考えるよりも、社会のために何かをしたい	0.110**	1,688	0.126**	2,744	0.600
今の日本では、大学を卒業していないと社会に出てから不自由な思いをする	0.022	1,683	0.036	2,737	0.651
自分の日々の暮らしの損得を離れて、社会全体の利益を大切にすべきだ	0.027	1,681	0.070**	2,726	0.165
私は世の中の仕組みや出来事をくわしく知っておきたい	0.103**	1,687	0.081**	2,747	0.474
権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない	0.034	1,682	0.064**	2,736	0.332
「宗教的な心」というものは大切だと思う	0.045	1,681	0.071**	2,676	0.402

注1 \*\* p&lt;0.01、\* p&lt;0.05

表 2-2 10 段階階層帰属意識と意識変数の相関係数の同等性の検定の結果

意識変数	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
「生活全般」満足度	0.388**	1,687	0.372**	2,714	0.547
「自分の学歴」満足度	0.246**	1,683	0.237**	2,706	0.758
「仕事の内容」満足度（有職者のみ）	0.232**	1,349	0.259**	2,069	0.412
「自分の収入」満足度（有職者のみ）	0.337**	1,349	0.374**	2,069	0.227
10年間の生活水準の変化	0.335**	1,682	0.359**	2,700	0.380
「収入」の水準	0.617**	1,631	0.669**	2,656	0.005**
「学歴」の水準	0.493**	1,676	0.391**	2,687	0.000**
「職業の社会的評価」の水準（有職者のみ）	0.423**	1,327	0.515**	2,025	0.001**
「財産」の水準	0.547**	1,651	0.614**	2,669	0.001**
「生活全般のゆとり」の水準	0.579**	1,677	0.649**	2,692	0.000**
働くことは、社会に対する義務である	0.076**	1,687	0.151**	2,700	0.014*
チャンスが平等に与えられるなら、競争で貧富の差がついても仕方がない	0.050*	1,679	0.182**	2,700	0.000**
競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくの方が大切だ	-0.136**	1,680	-0.169**	2,699	0.277
今後、日本で格差が広がってもかまわない	0.082**	1,684	0.183**	2,699	0.001**
今の日本では収入の格差が大きすぎる	-0.154**	1,679	-0.177**	2,693	0.447
違った考え方をを持った人がたくさんいるほうが、社会にとって望ましい	0.026	1,683	0.068**	2,698	0.176
社会から何かしてもらうことを考えるよりも、社会のために何かをしたい	0.116**	1,687	0.098**	2,702	0.558
今の日本では、大学を卒業していないと社会に出てから不自由な思いをする	0.004	1,684	0.025	2,696	0.499
自分の日々の暮らしの損得を離れて、社会全体の利益を大切にすべきだ	0.001	1,678	0.063**	2,687	0.046*
私は世の中の仕組みや出来事をくわしく知っておきたい	0.089**	1,686	0.072**	2,707	0.582
権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない	0.022	1,681	0.066**	2,695	0.156
「宗教的な心」というものは大切だと思う	0.013	1,680	0.027	2,633	0.654

注1 \*\* p&lt;0.01、\* p&lt;0.05

表3 属性変数の基礎統計量

	SSP-I2010			SSP-W2012		
	<i>n</i>	平均値	標準偏差	<i>n</i>	平均値	標準偏差
性別（男性1、女性2）	1,748	1.563	0.496	2,839	1.500	0.500
年齢	1,746	44.341	9.918	2,839	42.430	10.026
教育年数	1,729	13.202	2.008	2,837	14.208	2.195
職業威信スコア	1,358	50.891	8.244	1,993	57.798	9.917
世帯収入	1,552	6.378	4.403	2,477	6.359	5.486

注1 SSP-W2012では簡易職業威信スコアを用いた

注2 世帯収入の単位は100万円

注3 以降の重回帰分析では、従属変数によって*n*が多少異なるが、この表では変数ごとに利用可能な最大の*n*を示した

表4-1 属性変数と5段階階層帰属意識の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の検定 <i>p</i> 値
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	
性別（男性1、女性2）	0.076**	1,692	0.075**	2,758	0.974
年齢	0.004	1,690	0.089**	2,758	0.006**
教育年数	0.284**	1,674	0.191**	2,756	0.001**
職業威信スコア	0.278**	1,317	0.226**	1,946	0.120
世帯収入	0.298**	1,514	0.351**	2,429	0.071

注1 SSP-W2012では簡易職業威信スコアを用いた

注2 世帯収入は100万円単位

注3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表4-2 属性変数と10段階階層帰属意識の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の検定 <i>p</i> 値
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	
性別（男性1、女性2）	0.009	1,689	0.031	2,716	0.478
年齢	-0.004	1,687	0.062*	2,716	0.033*
教育年数	0.304**	1,671	0.185**	2,714	0.000**
職業威信スコア	0.259**	1,315	0.191**	1,911	0.046*
世帯収入	0.311**	1,512	0.317**	2,394	0.840

注1 SSP-W2012では簡易職業威信スコアを用いた

注2 世帯収入は100万円単位

注3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表4-3 属性変数と「生活全般」満足度の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の検定 <i>p</i> 値
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	
性別（男性1、女性2）	0.027	1,745	0.084**	2,837	0.060
年齢	-0.083**	1,743	-0.012	2,837	0.019*
教育年数	0.150**	1,726	0.101**	2,835	0.103
職業威信スコア	0.136**	1,356	0.113**	1,992	0.507
世帯収入	0.198**	1,551	0.221**	2,476	0.458

注1 SSP-W2012では簡易職業威信スコアを用いた

注2 世帯収入は100万円単位

注3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-4 属性変数と「自分の学歴」満足度の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	0.028	1,741	0.061**	2,829	0.278
年齢	-0.088**	1,739	0.025	2,829	0.000**
教育年数	0.336**	1,722	0.323**	2,827	0.634
職業威信スコア	0.163**	1,354	0.128**	1,989	0.311
世帯収入	0.130**	1,548	0.111**	2,468	0.552

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 4-5 属性変数と「仕事の内容」満足度の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	0.021	1,395	0.065**	2,162	0.200
年齢	0.020	1,395	0.007	2,162	0.705
教育年数	0.109**	1,379	0.065**	2,161	0.199
職業威信スコア	0.152**	1,355	0.160**	1,989	0.816
世帯収入	0.115**	1,244	0.150**	1,915	0.328

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 4-6 属性変数と「自分の収入」満足度の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	0.023	1,395	0.051*	2,162	0.415
年齢	-0.025	1,395	0.024	2,162	0.154
教育年数	0.141**	1,379	0.066**	2,161	0.028*
職業威信スコア	0.179**	1,355	0.119**	1,990	0.082
世帯収入	0.234**	1,244	0.230**	1,916	0.908

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 4-7 属性変数と 10 年間の生活水準の変化の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	0.006	1,739	0.049**	2,162	0.182
年齢	-0.205**	1,737	-0.195**	2,162	0.747
教育年数	0.135**	1,721	0.072**	2,161	0.049*
職業威信スコア	0.158**	1,354	0.057**	1,990	0.004**
世帯収入	0.192**	1,547	0.190**	1,916	0.952

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$



表 4-8 属性変数と「収入の水準」の自己評価の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.096**	1,664	-0.095**	2,733	0.974
年齢	-0.022	1,663	0.079**	2,733	0.001**
教育年数	0.240**	1,645	0.161**	2,731	0.008**
職業威信スコア	0.298**	1,333	0.256**	1,941	0.201
世帯収入	0.314**	1,491	0.310**	2,402	0.893

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 4-9 属性変数と「学歴の水準」の自己評価の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	0.006	1,715	-0.045*	2,781	0.097
年齢	0.003	1,713	0.038*	2,781	0.255
教育年数	0.514**	1,697	0.506**	2,779	0.726
職業威信スコア	0.271**	1,339	0.175**	1,954	0.004**
世帯収入	0.173**	1,530	0.146**	2,437	0.396

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 4-10 属性変数と「職業の社会的評価の水準」の自己評価の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.092**	1,664	-0.090**	2,081	0.951
年齢	-0.027	1,663	0.057**	2,081	0.011*
教育年数	0.239**	1,645	0.194**	2,080	0.153
職業威信スコア	0.271**	1,333	0.264**	1,920	0.833
世帯収入	0.194**	1,491	0.226**	1,857	0.336

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 4-11 属性変数と「財産の水準」の自己評価の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.047	1,685	-0.010	2,753	0.232
年齢	0.003	1,683	0.064**	2,753	0.049*
教育年数	0.211**	1,667	0.194**	2,751	0.568
職業威信スコア	0.170**	1,322	0.155**	1,945	0.666
世帯収入	0.285**	1,503	0.282**	2,422	0.921

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-12 属性変数と「生活全般のゆとり」の自己評価の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.006	1,715	0.011	2,779	0.599
年齢	-0.087**	1,713	0.002	2,779	0.006**
教育年数	0.234**	1,696	0.181**	2,777	0.088
職業威信スコア	0.181**	1,336	0.137**	1,952	0.202
世帯収入	0.246**	1,532	0.296**	2,440	0.116

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 4-13 属性変数と「働くことは、社会に対する義務である」の相関係数の同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.148**	1,742	-0.095**	2,822	0.078
年齢	0.089**	1,740	0.094**	2,822	0.869
教育年数	0.050*	1,723	0.056**	2,820	0.844
職業威信スコア	0.041	1,356	0.127**	1,985	0.014*
世帯収入	0.108**	1,548	0.090**	2,463	0.575

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 4-14 属性変数と「チャンスが平等に与えられるなら、競争で貧富の差がついても仕方がない」の

相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.178**	1,732	-0.103**	2,822	0.012
年齢	-0.009	1,730	-0.016	2,822	0.819
教育年数	0.107**	1,713	0.122**	2,820	0.620
職業威信スコア	-0.004	1,350	0.077**	1,982	0.022*
世帯収入	0.112**	1,542	0.131**	2,463	0.553

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 4-15 属性変数と「競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくことの方が大切だ」の

相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	0.125**	1,732	0.097**	2,822	0.353
年齢	0.109**	1,730	0.005	2,822	0.001**
教育年数	-0.226**	1,713	-0.126**	2,820	0.001**
職業威信スコア	-0.114**	1,349	-0.070**	1,985	0.209
世帯収入	-0.146**	1,540	-0.132**	2,465	0.661

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-16 属性変数と「今後、日本で格差が広がってもかまわない」の相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.186**	1,736	-0.190**	2,822	0.892
年齢	-0.086**	1,734	-0.020	2,822	0.030*
教育年数	0.084**	1,717	0.102**	2,820	0.553
職業威信スコア	0.057*	1,352	0.077**	1,980	0.569
世帯収入	0.144**	1,545	0.122**	2,464	0.490

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-17 属性変数と「今の日本では収入の格差が大きすぎる」の相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	0.078**	1,733	0.117**	2,814	0.198
年齢	0.103**	1,731	0.039*	2,814	0.035*
教育年数	-0.183**	1,714	-0.165**	2,812	0.545
職業威信スコア	-0.131**	1,349	-0.089**	1,973	0.229
世帯収入	-0.143**	1,540	-0.135**	2,459	0.802

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-18 属性変数と「違った考え方を持った人がたくさんいるほうが、社会にとって望ましい」の相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.106**	1,735	-0.066**	2,819	0.187
年齢	-0.064**	1,733	-0.083**	2,819	0.532
教育年数	0.123**	1,716	0.127**	2,817	0.895
職業威信スコア	0.022	1,350	0.067**	1,982	0.202
世帯収入	0.054*	1,544	0.038	2,462	0.622

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-19 属性変数と「社会から何かしてもらおうことを考えるよりも、社会のために何かをしたい」の相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.026	1,742	-0.036	2,825	0.743
年齢	0.121**	1,740	0.075**	2,825	0.128
教育年数	0.069**	1,723	0.085**	2,823	0.599
職業威信スコア	0.061*	1,358	0.090**	1,987	0.408
世帯収入	0.087**	1,549	0.094**	2,466	0.828

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-20 属性変数と「今の日本では、大学を卒業していないと社会に出てから不自由な思いをする」の

相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	0.102**	1,737	0.032	2,816	0.021*
年齢	0.002	1,735	-0.043*	2,816	0.140
教育年数	0.063**	1,718	-0.029	2,814	0.003**
職業威信スコア	0.023	1,353	0.023	1,981	1.000
世帯収入	0.072**	1,545	-0.004	2,461	0.019*

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-21 属性変数と「自分の日々の暮らしの損得を離れて、社会全体の利益を大切にすべきだ」の  
相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.034	1,734	-0.039*	2,806	0.870
年齢	0.121**	1,732	0.073**	2,806	0.113
教育年数	-0.016	1,715	0.053**	2,804	0.024*
職業威信スコア	-0.026	1,351	0.043	1,982	0.051
世帯収入	0.033	1,544	0.019	2,454	0.667

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-22 属性変数と「私は世の中の仕組みや出来事をくわしく知っておきたい」の相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.097**	1,741	-0.102**	2,828	0.868
年齢	0.001	1,739	-0.035	2,828	0.238
教育年数	0.166**	1,722	0.131**	2,826	0.242
職業威信スコア	0.054*	1,357	0.080**	1,987	0.459
世帯収入	0.054*	1,548	0.028	2,468	0.422

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-23 属性変数と「権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない」の相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	-0.023	1,733	-0.048*	2,816	0.413
年齢	-0.071**	1,731	-0.102**	2,816	0.307
教育年数	-0.005	1,714	0.020	2,814	0.415
職業威信スコア	-0.025	1,351	0.001	1,981	0.462
世帯収入	-0.040	1,544	-0.002	2,458	0.242

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 4-24 属性変数と「『宗教的な心』というものは大切だと思う」の相関係数とその同等性の検定の結果

	SSP-I2010		SSP-W2012		同等性の 検定
	相関係数	<i>n</i>	相関係数	<i>n</i>	<i>p</i> 値
性別（男性 1、女性 2）	0.042	1,733	-0.038*	2,752	0.009**
年齢	0.154**	1,731	0.119**	2,752	0.245
教育年数	0.023	1,714	0.041*	2,750	0.559
職業威信スコア	0.012	1,349	0.054*	1,941	0.236
世帯収入	0.014	1,544	0.004	2,405	0.759

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-1 5 段階階層帰属意識を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化	B の 95%信頼区間	
			偏回帰係数 $\beta$	下限	上限
(定数項)	0.725	0.224		0.285	1.166
性別（男性 1、女性 2）	0.110	0.042	0.071**	0.028	0.193
年齢	0.003	0.002	0.038	-0.001	0.007
教育年数	0.077	0.011	0.201**	0.054	0.099
職業威信スコア	0.015	0.003	0.166**	0.010	0.021
世帯収入	0.031	0.005	0.184**	0.021	0.041
$R^2$			0.160**		
<i>n</i>			1,175		
SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
(定数項)	0.688	0.197		0.303	1.074
性別（男性 1、女性 2）	0.154	0.040	0.088**	0.076	0.232
年齢	0.002	0.002	0.020	-0.002	0.005
教育年数	0.057	0.009	0.150**	0.040	0.074
職業威信スコア	0.013	0.002	0.152**	0.009	0.017
世帯収入	0.042	0.003	0.292**	0.036	0.049
$R^2$			0.162**		
<i>n</i>			1,748		

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-2 10段階階層帰属意識を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	Bの95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.125	0.421		0.300	1.951
性別(男性1、女性2)	0.057	0.079	0.020	-0.097	0.211
年齢	0.008	0.004	0.051	0.000	0.016
教育年数	0.172	0.021	0.238**	0.130	0.214
職業威信スコア	0.020	0.005	0.113**	0.010	0.030
世帯収入	0.067	0.009	0.209**	0.049	0.084
$R^2$	0.170**				
$n$	1,175				
SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	Bの95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.892	0.413		1.082	2.703
性別(男性1、女性2)	0.077	0.084	0.022	-0.087	0.242
年齢	-0.001	0.004	-0.004	-0.009	0.007
教育年数	0.103	0.018	0.133**	0.067	0.140
職業威信スコア	0.020	0.004	0.113**	0.011	0.028
世帯収入	0.077	0.007	0.266**	0.064	0.091
$R^2$	0.123**				
$n$	1,717				

注1 SSP-W2012では簡易職業威信スコアを用いた

注2 世帯収入は100万円単位

注3 \*\* p&lt;0.01、\* p&lt;0.05

表 5-3 「生活全般の満足度」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	Bの95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.448	0.307		2.845	4.050
性別(男性1、女性2)	-0.003	0.057	-0.001	-0.116	0.110
年齢	-0.009	0.003	-0.090**	-0.016	-0.003
教育年数	0.024	0.016	0.049	-0.006	0.055
職業威信スコア	0.006	0.004	0.049	-0.001	0.013
世帯収入	0.036	0.007	0.164**	0.023	0.049
$R^2$	0.224**				
$n$	1,203				
SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	Bの95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.202	0.270		1.673	2.731
性別(男性1、女性2)	0.152	0.055	0.066**	0.045	0.260
年齢	-0.009	0.003	-0.084**	-0.015	-0.004
教育年数	0.032	0.012	0.064**	0.008	0.056
職業威信スコア	0.011	0.003	0.098**	0.006	0.016
世帯収入	0.037	0.005	0.194**	0.028	0.046
$R^2$	0.063**				
$n$	1,780				

注1 SSP-W2012では簡易職業威信スコアを用いた

注2 世帯収入は100万円単位

注3 \*\* p&lt;0.01、\* p&lt;0.05

表 5-4 「自分の学歴の満足度」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.181	0.328		0.538	1.824
性別 (男性 1、女性 2)	0.041	0.061	0.018	-0.079	0.161
年齢	-0.003	0.003	-0.029	-0.010	0.003
教育年数	0.174	0.017	0.317**	0.142	0.207
職業威信スコア	0.003	0.004	0.023	-0.005	0.011
世帯収入	0.011	0.007	0.046	-0.003	0.025
$R^2$	0.119**				
$n$	1,201				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	-0.067	0.252		-0.561	0.426
性別 (男性 1、女性 2)	0.297	0.051	0.132**	0.196	0.397
年齢	0.002	0.002	0.018	-0.003	0.007
教育年数	0.171	0.011	0.351**	0.149	0.193
職業威信スコア	0.007	0.003	0.066**	0.002	0.012
世帯収入	0.015	0.004	0.079**	0.007	0.023
$R^2$	0.149**				
$n$	1,777				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 5-5 「仕事の内容の満足度」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.224	0.323		1.590	2.857
性別 (男性 1、女性 2)	0.104	0.060	0.050	-0.014	0.222
年齢	0.005	0.003	0.042	-0.002	0.011
教育年数	0.030	0.016	0.057	-0.003	0.062
職業威信スコア	0.014	0.004	0.111**	0.006	0.022
世帯収入	0.015	0.007	0.067*	0.002	0.029
$R^2$	0.032**				
$n$	1,201				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.415	0.271		0.884	1.946
性別 (男性 1、女性 2)	0.263	0.055	0.114**	0.155	0.370
年齢	-0.002	0.003	-0.021	-0.008	0.003
教育年数	0.022	0.012	0.043	-0.002	0.045
職業威信スコア	0.019	0.003	0.172**	0.014	0.025
世帯収入	0.024	0.005	0.128**	0.015	0.033
$R^2$	0.059**				
$n$	1,777				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-6 「自分の収入の満足度」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.454	0.371		0.726	2.183
性別 (男性 1、女性 2)	0.139	0.069	0.057*	0.003	0.276
年齢	-0.004	0.004	-0.030	-0.011	0.003
教育年数	0.036	0.019	0.060	-0.001	0.073
職業威信スコア	0.016	0.005	0.108**	0.007	0.025
世帯収入	0.052	0.008	0.192**	0.036	0.068
$R^2$	0.075**				
$n$	1,201				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.182	0.282		0.630	1.735
性別 (男性 1、女性 2)	0.198	0.057	0.082**	0.085	0.310
年齢	-0.002	0.003	-0.014	-0.007	0.004
教育年数	0.017	0.013	0.033	-0.008	0.042
職業威信スコア	0.012	0.003	0.103**	0.006	0.018
世帯収入	0.043	0.005	0.216**	0.034	0.052
$R^2$	0.067**				
$n$	1,778				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 5-7 10 年間の生活水準の変化を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.078	0.329		2.433	3.723
性別 (男性 1、女性 2)	-0.015	0.061	-0.007	-0.136	0.105
年齢	-0.026	0.003	-0.227**	-0.033	-0.020
教育年数	0.017	0.017	0.031	-0.016	0.050
職業威信スコア	0.010	0.004	0.073*	0.002	0.018
世帯収入	0.041	0.007	0.171**	0.027	0.055
$R^2$	0.096**				
$n$	1,203				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.160	0.276		2.620	3.701
性別 (男性 1、女性 2)	0.028	0.056	0.012	-0.081	0.138
年齢	-0.033	0.003	-0.281**	-0.038	-0.028
教育年数	0.019	0.012	0.036	-0.006	0.043
職業威信スコア	0.006	0.003	0.051*	0.000	0.011
世帯収入	0.043	0.005	0.217**	0.034	0.052
$R^2$	0.113**				
$n$	1,770				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$



表 5-8 「収入の水準」の自己評価を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.807	0.490		0.846	2.767
性別 (男性 1、女性 2)	-0.354	0.092	-0.103**	-0.533	-0.174
年齢	-0.002	0.005	-0.009	-0.011	0.008
教育年数	0.106	0.025	0.126**	0.058	0.155
職業威信スコア	0.032	0.006	0.156**	0.020	0.044
世帯収入	0.090	0.011	0.240**	0.069	0.111
$R^2$	0.172**				
$n$	1,188				
SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.196	0.442		0.328	2.064
性別 (男性 1、女性 2)	-0.288	0.091	-0.073**	-0.466	-0.111
年齢	-0.003	0.004	-0.014	-0.011	0.006
教育年数	0.102	0.020	0.119**	0.063	0.141
職業威信スコア	0.033	0.004	0.170**	0.024	0.041
世帯収入	0.087	0.007	0.267**	0.072	0.101
$R^2$	0.159**				
$n$	1,744				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 5-9 「学歴の水準」の自己評価を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	-2.900	0.456		-3.794	-2.006
性別 (男性 1、女性 2)	0.100	0.085	0.029	-0.067	0.267
年齢	0.024	0.005	0.130**	0.015	0.033
教育年数	0.454	0.023	0.528**	0.409	0.499
職業威信スコア	0.017	0.006	0.080**	0.006	0.028
世帯収入	0.002	0.010	0.007	-0.017	0.022
$R^2$	0.305**				
$n$	1,192				
SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	-2.504	0.397		-3.283	-1.725
性別 (男性 1、女性 2)	0.218	0.081	0.056**	0.060	0.377
年齢	0.011	0.004	0.059**	0.003	0.019
教育年数	0.438	0.018	0.521**	0.403	0.473
職業威信スコア	0.010	0.004	0.053*	0.002	0.018
世帯収入	0.025	0.007	0.078**	0.012	0.038
$R^2$	0.295**				
$n$	1,753				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-10 「職業の社会的評価の水準」の自己評価を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.135	0.487		1.180	3.089
性別 (男性 1、女性 2)	-0.155	0.091	-0.047	-0.333	0.024
年齢	0.001	0.005	0.004	-0.009	0.010
教育年数	0.118	0.025	0.146**	0.070	0.167
職業威信スコア	0.038	0.006	0.193**	0.026	0.050
世帯収入	0.036	0.011	0.099**	0.015	0.057
$R^2$	0.115**				
$n$	1,178				
SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.435	0.421		0.609	2.261
性別 (男性 1、女性 2)	-0.044	0.086	-0.012	-0.213	0.125
年齢	0.002	0.004	0.010	-0.006	0.010
教育年数	0.096	0.019	0.121**	0.059	0.133
職業威信スコア	0.036	0.004	0.205**	0.028	0.045
世帯収入	0.054	0.007	0.179**	0.040	0.067
$R^2$	0.119**				
$n$	1,725				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 5-11 「財産の水準」の自己評価を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.653	0.569		0.537	2.769
性別 (男性 1、女性 2)	-0.199	0.107	-0.052	-0.408	0.010
年齢	0.004	0.006	0.018	-0.008	0.015
教育年数	0.131	0.029	0.138**	0.074	0.188
職業威信スコア	0.009	0.007	0.041	-0.004	0.023
世帯収入	0.101	0.013	0.239**	0.076	0.125
$R^2$	0.112**				
$n$	1,177				
SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	0.717	0.497		-0.258	1.691
性別 (男性 1、女性 2)	0.009	0.101	0.002	-0.190	0.207
年齢	-0.004	0.005	-0.019	-0.014	0.006
教育年数	0.164	0.022	0.175**	0.120	0.207
職業威信スコア	0.015	0.005	0.073**	0.005	0.025
世帯収入	0.082	0.008	0.230**	0.065	0.098
$R^2$	0.108**				
$n$	1,747				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-12 「生活全般のゆとりの水準」の自己評価を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.759	0.540		1.699	3.819
性別 (男性 1、女性 2)	-0.098	0.101	-0.027	-0.297	0.100
年齢	-0.012	0.005	-0.062*	-0.022	-0.001
教育年数	0.127	0.027	0.142**	0.073	0.180
職業威信スコア	0.013	0.007	0.061*	0.000	0.026
世帯収入	0.077	0.012	0.193**	0.053	0.100
$R^2$	0.096**				
$n$	1,192				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.323	0.460		1.421	3.226
性別 (男性 1、女性 2)	-0.031	0.094	-0.008	-0.215	0.153
年齢	-0.015	0.005	-0.074**	-0.024	-0.006
教育年数	0.128	0.021	0.147**	0.088	0.168
職業威信スコア	0.013	0.005	0.065**	0.003	0.022
世帯収入	0.087	0.008	0.264**	0.072	0.102
$R^2$	0.114**				
$n$	1,754				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-13 「働くことは、社会に対する義務である」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	4.074	0.301		3.484	4.663
性別 (男性 1、女性 2)	-0.275	0.056	-0.141**	-0.386	-0.165
年齢	0.007	0.003	0.070*	0.001	0.013
教育年数	0.015	0.015	0.031	-0.015	0.045
職業威信スコア	-0.001	0.004	-0.006	-0.008	0.007
世帯収入	0.018	0.007	0.083**	0.005	0.031
$R^2$	0.038**				
$n$	1,203				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.852	0.263		2.337	3.367
性別 (男性 1、女性 2)	-0.091	0.053	-0.041	-0.195	0.014
年齢	0.007	0.003	0.063*	0.002	0.012
教育年数	0.005	0.012	0.011	-0.018	0.028
職業威信スコア	0.010	0.003	0.093**	0.005	0.015
世帯収入	0.011	0.004	0.061*	0.003	0.020
$R^2$	0.026**				
$n$	1,774				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-14 「チャンスが平等に与えられるなら、競争で貧富の差がついても仕方がない」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	4.469	0.307		3.866	5.072
性別 (男性 1、女性 2)	-0.420	0.057	-0.206**	-0.532	-0.307
年齢	-0.006	0.003	-0.055	-0.012	0.000
教育年数	0.041	0.016	0.082**	0.011	0.072
職業威信スコア	-0.012	0.004	-0.095**	-0.019	-0.004
世帯収入	0.026	0.007	0.117**	0.013	0.039
$R^2$	0.071**				
$n$	1,197				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.380	0.229		2.931	3.830
性別 (男性 1、女性 2)	-0.134	0.047	-0.070**	-0.226	-0.043
年齢	-0.005	0.002	-0.056*	-0.010	-0.001
教育年数	0.035	0.010	0.084**	0.015	0.055
職業威信スコア	0.002	0.002	0.018	-0.003	0.006
世帯収入	0.016	0.004	0.103**	0.009	0.024
$R^2$	0.030**				
$n$	1,772				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-15 「競争の自由をまもるよりも、格差をなくしていくことのほうが大切だ」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	4.006	0.322		3.374	4.638
性別 (男性 1、女性 2)	0.242	0.060	0.113**	0.124	0.361
年齢	0.010	0.003	0.088**	0.004	0.016
教育年数	-0.092	0.016	-0.174**	-0.124	-0.060
職業威信スコア	-0.001	0.004	-0.012	-0.009	0.006
世帯収入	0.020	0.007	-0.084**	-0.034	-0.006
$R^2$	0.078**				
$n$	1,196				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.155	0.244		2.677	3.633
性別 (男性 1、女性 2)	0.192	0.050	0.094**	0.095	0.289
年齢	0.004	0.002	0.044	0.000	0.009
教育年数	-0.034	0.011	-0.076**	-0.055	-0.012
職業威信スコア	-0.001	0.002	-0.008	-0.006	0.004
世帯収入	-0.019	0.004	-0.114**	-0.027	-0.011
$R^2$	0.034**				
$n$	1,774				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-16 「今後、日本で格差が広がってもかまわない」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.971	0.310		2.363	3.579
性別 (男性 1、女性 2)	-0.349	0.058	-0.171**	-0.463	-0.236
年齢	-0.012	0.003	-0.114**	-0.018	-0.006
教育年数	0.013	0.016	0.025	-0.018	0.043
職業威信スコア	-0.003	0.004	-0.021	-0.010	0.005
世帯収入	0.033	0.007	0.148**	0.020	0.047
$R^2$	0.067**				
$n$	1,200				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.795	0.250		2.304	3.286
性別 (男性 1、女性 2)	-0.339	0.051	-0.161**	-0.439	-0.239
年齢	-0.008	0.002	-0.080**	-0.013	-0.003
教育年数	0.018	0.011	0.039	-0.004	0.040
職業威信スコア	0.002	0.003	0.015	-0.003	0.007
世帯収入	0.021	0.004	0.121**	0.013	0.029
$R^2$	0.050**				
$n$	1,772				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$ 

表 5-17 「今の日本では収入の格差が大きすぎる」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	4.714	0.351		4.025	5.404
性別 (男性 1、女性 2)	0.154	0.065	0.067*	0.025	0.282
年齢	0.009	0.003	0.077**	0.003	0.016
教育年数	-0.080	0.018	-0.139**	-0.114	-0.045
職業威信スコア	-0.007	0.004	-0.049	-0.015	0.002
世帯収入	-0.029	0.008	-0.114**	-0.044	-0.014
$R^2$	0.068**				
$n$	1,196				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.799	0.260		3.290	4.309
性別 (男性 1、女性 2)	0.191	0.053	0.087**	0.087	0.294
年齢	0.011	0.003	0.104**	0.006	0.016
教育年数	-0.059	0.012	-0.123**	-0.081	-0.036
職業威信スコア	-0.003	0.003	-0.024	-0.008	0.003
世帯収入	-0.023	0.004	-0.126**	-0.031	-0.014
$R^2$	0.057**				
$n$	1,767				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-18 「違った考えかたを持った人がたくさんいるほうが、社会にとって望ましい」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.900	0.303		3.306	4.493
性別 (男性 1、女性 2)	-0.208	0.057	-0.106**	-0.319	-0.097
年齢	-0.006	0.003	-0.055	-0.012	0.000
教育年数	0.055	0.015	0.114**	0.025	0.085
職業威信スコア	-0.006	0.004	-0.054	-0.014	0.001
世帯収入	0.007	0.007	0.033	-0.006	0.020
$R^2$	0.031**				
$n$	1,198				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.294	0.211		2.880	3.708
性別 (男性 1、女性 2)	-0.060	0.043	-0.034	-0.144	0.025
年齢	-0.007	0.002	-0.084**	-0.011	-0.003
教育年数	0.039	0.009	0.101**	0.020	0.057
職業威信スコア	0.003	0.002	0.033	-0.001	0.007
世帯収入	0.006	0.004	0.038	-0.001	0.012
$R^2$	0.025**				
$n$	1,772				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-19 「社会から何かしてもらおうことを考えるよりも、社会のために何かをしたい」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.724	0.281		2.172	3.275
性別 (男性 1、女性 2)	-0.036	0.053	-0.020	-0.139	0.067
年齢	0.009	0.003	0.090**	0.003	0.014
教育年数	0.039	0.014	0.086**	0.011	0.067
職業威信スコア	0.001	0.003	0.009	-0.006	0.008
世帯収入	0.009	0.006	0.047	-0.003	0.021
$R^2$	0.020**				
$n$	1,204				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.458	0.215		2.036	2.879
性別 (男性 1、女性 2)	0.018	0.044	0.010	-0.067	0.104
年齢	0.002	0.002	0.024	-0.002	0.006
教育年数	0.026	0.010	0.068**	0.007	0.045
職業威信スコア	0.006	0.002	0.067**	0.002	0.010
世帯収入	0.010	0.004	0.070**	0.003	0.017
$R^2$	0.019**				
$n$	1,775				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-20 「今の日本では、大学を卒業していないと社会に出てから不自由な思いをする」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.809	0.388		1.047	2.571
性別 (男性 1、女性 2)	0.338	0.073	0.134**	0.195	0.480
年齢	0.001	0.004	0.008	-0.007	0.009
教育年数	0.032	0.020	0.051	-0.007	0.071
職業威信スコア	0.001	0.005	0.007	-0.008	0.010
世帯収入	0.021	0.008	0.077*	0.004	0.038
$R^2$				0.025**	
$n$				1,200	

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.098	0.273		2.562	3.634
性別 (男性 1、女性 2)	0.061	0.055	0.027	-0.047	0.170
年齢	-0.004	0.003	-0.036	-0.009	0.001
教育年数	-0.012	0.012	-0.025	-0.036	0.012
職業威信スコア	0.005	0.003	0.043	-0.001	0.010
世帯収入	-0.005	0.005	-0.026	-0.014	0.004
$R^2$				0.004	
$n$				1,771	

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-21 「自分の日々の暮らしの損得を離れて、社会全体の利益を大切にすべきだ」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.886	0.302		2.294	3.478
性別 (男性 1、女性 2)	-0.063	0.056	-0.032	-0.174	0.048
年齢	0.008	0.003	0.078**	0.002	0.014
教育年数	0.012	0.015	0.025	-0.018	0.042
職業威信スコア	-0.007	0.004	-0.059	-0.014	0.000
世帯収入	0.012	0.007	0.058	-0.001	0.025
$R^2$				0.013**	
$n$				1,200	

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	2.304	2.222		1.869	2.739
性別 (男性 1、女性 2)	-0.036	0.045	-0.020	-0.125	0.052
年齢	0.006	0.002	0.064**	0.001	0.010
教育年数	0.031	0.010	0.078**	0.012	0.051
職業威信スコア	0.000	0.002	0.002	-0.004	0.005
世帯収入	-0.002	0.004	-0.011	-0.009	0.006
$R^2$				0.010**	
$n$				1,774	

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$

表 5-22 「私は世の中の仕組みや出来事をくわしく知っておきたい」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.584	0.274		3.046	4.121
性別 (男性 1、女性 2)	-0.167	0.051	-0.093**	-0.267	-0.066
年齢	-0.003	0.003	-0.028	-0.008	0.003
教育年数	0.072	0.014	0.163**	0.044	0.099
職業威信スコア	-0.003	0.003	-0.032	-0.010	0.003
世帯収入	-0.002	0.006	-0.010	-0.014	0.010
$R^2$	0.036**				
$n$	1,204				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.325	0.207		2.919	3.731
性別 (男性 1、女性 2)	-0.140	0.042	-0.081**	-0.223	-0.058
年齢	-0.005	0.002	-0.060*	-0.009	-0.001
教育年数	0.047	0.009	0.124**	0.028	0.065
職業威信スコア	0.003	0.002	0.036	-0.001	0.007
世帯収入	-0.002	0.003	-0.010	-0.008	0.005
$R^2$	0.033**				
$n$	1,776				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\* p<0.01、\* p<0.05

表 5-23 「権威のある人々にはつねに敬意をはらわなければならない」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.734	0.338		3.071	4.397
性別 (男性 1、女性 2)	-0.097	0.063	-0.045	-0.221	0.027
年齢	-0.009	0.003	-0.082**	-0.016	-0.003
教育年数	-0.017	0.017	-0.032	-0.051	0.016
職業威信スコア	-0.001	0.004	-0.006	-0.009	0.007
世帯収入	-0.012	0.007	-0.049	-0.026	0.003
$R^2$	0.012*				
$n$	1,201				

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	3.241	0.246		2.759	3.723
性別 (男性 1、女性 2)	-0.087	0.050	-0.043	-0.185	0.011
年齢	-0.014	0.002	-0.140**	-0.019	-0.009
教育年数	0.001	0.011	0.002	-0.020	0.023
職業威信スコア	0.000	0.002	0.003	-0.005	0.005
世帯収入	0.003	0.004	0.021	-0.005	0.011
$R^2$	0.020**				
$n$	1,771				

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\* p<0.01、\* p<0.05



表 5-24 「宗教的な心」というものは大切だと思う」を従属変数とする重回帰分析

SSP-I2010	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.362	0.341		0.692	2.032
性別 (男性 1、女性 2)	0.144	0.064	0.065*	0.019	0.269
年齢	0.019	0.003	0.162**	0.012	0.025
教育年数	0.035	0.017	0.065*	0.001	0.069
職業威信スコア	0.003	0.004	0.022	-0.005	0.011
世帯収入	-0.006	0.007	-0.024	-0.020	0.009
$R^2$			0.029**		
$n$			1,199		

  

SSP-W2012	偏回帰係数 B	標準誤差	標準化 偏回帰係数 $\beta$	B の 95%信頼区間	
				下限	上限
(定数項)	1.643	0.263		1.127	2.160
性別 (男性 1、女性 2)	0.037	0.053	0.017	-0.068	0.141
年齢	0.011	0.003	0.104**	0.006	0.016
教育年数	0.022	0.012	0.047	-0.001	0.045
職業威信スコア	0.004	0.003	0.038	-0.001	0.009
世帯収入	-0.005	0.004	-0.027	-0.013	0.004
$R^2$			0.014**		
$n$			1,736		

注 1 SSP-W2012 では簡易職業威信スコアを用いた

注 2 世帯収入は 100 万円単位

注 3 \*\*  $p < 0.01$ 、\*  $p < 0.05$